



はなとうみょう
西本願寺 花灯明

2016(平成28)年10月1日(土)～10日(月)

寺婦のひろば

第 19 号

山陰教区
寺族婦人会連盟

題字：鷺谷良子

伝灯奉告法要をお迎えして

鳥取伯耆組組長 上杉 信成

十月二日に、ご本山での伝灯奉告法要へ鳥取伯耆組団体参拝団として、一三七名の方々と共に参拝いたしました。

チで準備を進められたと聞き、不安もありましたが、お参りの皆さま方を温かくお迎えいただきました。

伝灯奉告法要は、平成二十六年六月六日に法義の伝統を継承し、第二十五代専如門主となられ、「浄土真宗のみ教え」(法灯)を受け継がれたことを阿弥陀如来と親鸞聖人の御前に奉告するとともに、この法要を機縁として、お念仏のみ教えが広く伝わることを願い、宗門内外によびかけて、一人でも多くの方々に参拝していただくことを期してお勤めさせていただく大切なご法要です。

平成二十八年の十月一日から始まり、平成二十九年の五月三十一日まで十期修行されます。

当組は、山陰教区として最初であり、一般の法要の初日の参拝となりました。

法要に向けて、ご本山も急ピツ

この法要は、阿弥陀堂・御影堂両堂で勤まり、まず阿弥陀堂へご門主様が導師として、御影堂には前門様が御出座され、奉讃伝灯作法が勤まり、正信念佛偈の依経段をお上げしたところで雅楽が鳴り、楽中にご門主様と前門様が入れ替わり、今度は御影堂の方へご門主様が入堂され依釈段・念佛和讃・回向句と勤められました。満堂の御堂で共に正信偈をお上げし、御堂にお念佛の声が響き渡る法要のそのひと時に出遇わせていただき、喜びのご勝縁となりました。

この喜びを一人でも多くの方々にお伝えする日々を共に歩ませていただきたいと思います。

第二十五代専如門主伝灯奉告法要に参拝して

鹿足組桂正寺 岡崎圭子

平成二十八年十月六日に、鹿足組団体参拝に参加できたことを心から喜んでおります。

前日には、台風十八号接近でどうなるか心配しましたが被害もなく、翌日は団参旅行をたたえるように良い天気に恵まれました。

団参のバスの中では、幹事の方々のお心くばりで法要での心構えや正信偈のテープも流され、気持ち次第に落ち着いていきました。そうして懐かしい心の故郷、本願寺に到着、係の方々の温かい出迎えにほっといたしました。唐門の前で記念撮影をした後、無事に阿弥陀堂に入室し法要に臨みました。

「伝灯のつどい」ではご門主様のお言葉が聞け、又、大谷宗家のご家族の皆様方のお元氣なお姿が拝見できましたことは、身近に感じられて心なごむ祝典に思えました。

ご門主様のこれからの宗門の新しい道すじや、宗門全体の運営についてのご決心を聞くことができ、何より有難くうれしいことと思いました。複雑なこの世の中を生きる私たちに、み教



えをわかりやすく「ありのままに、ひたむきに」の本も出版され、仏教徒だけでなく広く世の中の人々に示され、とても素晴らしいと思います。

私事ですが、数年来難聴での苦しみを持ちながら生活しており、寺の会合には失礼することが多かったのですが、このたびの団参旅行では、寺族の

方々とも久しぶりにお会いできましたこともうれしい思い出です。
「百聞は一見にしかず」です。伝灯奉告法要に参加し、とても多くのご門

徒さん方が参っておられるのを見て、また、前向きに生きてまいりたいと思います。
ありがとうございました。



第25代専如門主伝灯奉告法要期日 (全10期 80日 80座)

2016(平成28)年

- 第1期 10月1日(土) ～10月8日(土)
- 第2期 10月20日(木) ～10月27日(木)
- 第3期 11月4日(金) ～11月11日(金)
- 第4期 11月18日(金) ～11月25日(金)

2017(平成29)年

- 第5期 3月7日(火) ～3月14日(火)
- 第6期 3月28日(火) ～4月4日(火)
- 第7期 4月11日(火) ～4月18日(火)
- 第8期 4月25日(火) ～5月2日(火)
- 第9期 5月9日(火) ～5月16日(火)
- 第10期 5月24日(水) ～5月31日(水)

第二十五代専如門主伝灯奉告法要に参拝して

邑智東組西善寺 高倉紀子

去る十月二十一日朝まだ暗い中、邑智東組団体参拝のバスに乗り、自坊の住職、組内の寺族、門信徒の方々と共に第二十五代専如門主伝灯奉告法要にお参りさせていただきました。私にとつては、三十四年前の帰敬式（新婚旅行）、五年前の親鸞聖人七百五十回大遠忌法要につづき、三回目のご本山参りとなりました。

本願寺に着き、きれいに整備された

境内地へ入れば、優美な中にも威容を誇る阿弥陀堂と御影堂、参拝者のための休憩施設「あかり」、公開された書院や飛雲閣等々、実際に足を運び目や耳でとらえたからこそ味わうことのできた本願寺の伝統・歴史、参拝者の方々を迎え入れるお心を、随所と感じることができました。

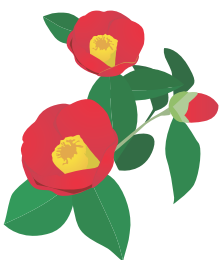
法要前、本願寺派布教使清岡隆文師に「他のものをよりどころとするので

はなく、私と共にあつてくださる、まことの教えである光（灯）をよりどころとして生きること」とご法話いただきました。この伝灯奉告法要にあたり、ご門主様、前門様にお目にかかることができ、改めて前門様の三十七年間のご教化に感謝するとともに、専如門主様の門出をお祝いし、共々にお念仏を受け伝えることを喜ばせていただくことができました。

法要後のご門主様ご夫妻とお子様方、前門様ご夫妻とのつどいでは、ほほえましいお子様方のご様子やご家族のあたたかいお言葉に、親しみを覚える時間となりました。

法要の終わりに、参拝者一同で拝読文を唱和いたしました。「今、すべての人びとを救おうという阿弥陀仏の本願のお心をお聞きし、愚かなる無明の酔いも次第にさめ、むさぼり・いかり・おろかさという三つの毒も少しずつ好まぬようになり、阿弥陀仏の薬をつねに好む身となっておられるのです。」このご文に示されるように、自分中心で煩悩だらけの私であります

が、そういった自分に気づかされ、お念仏をよりどころとして日々精一杯努めていきたいと改めて思ったご法要でした。



「寺族若婦人研修会」に参加して、坊守としてのあゆみ

佐波組浄土寺 西原華林

組内の若い(?)坊守様たちと、乗り合わせ、連れ立って、益田組専光寺様を会所として行われた「教区寺族若婦人研修会」に三月一日、参加させていただきました。

遠いと思っていた益田も、車中ワイワイ、同業種意見交換交流のおかげで、「あら、もう着いた!」の距離。し

かし長旅をしましたというような顔をして到着すれば、「ようこそお参りくださいました」と大歓迎のおもてなしを受けて、千代紙の手折りのお菓子受け、御抹茶の接待に、私はニヤけて化けの皮がはがれてしまいました。初対面の方ともお知り合いになるように工夫されたくじ引きでの席決め(住

職によると他の研修会では考えられないらしいです)などの取り計らいで、恥ずかしがり屋の私も初めての方とも、お話ができました。

ご講話は、会所の前坊守様枋 畠智勢子先生の「坊守としてのあゆみ」。とても貴重なお話が聞けて良かったと、帰りの車中は少しの間はしみりみんなどお話ができました。坊守としての言動、立ち居振る舞い、ご講師の全ての姿勢からしみ出るものがあり、「あなりたいなあ」「いや、一体私にできるかなあ」とお話を聞かせていただきました。幼少期より、お祖母様からのお育て、「お精進の御正忌が早くあけないかなあ」とお腹をす

かしていた小学校時代のころ、いたずらをする、「親さまに申し訳がたたないよ」と育てられたこと、女学校の時の壮絶な戦争体験、お兄様の死、そして結婚、里から派遣されたはっちゃんの話、民生委員として三十九年間、門徒以外の方たちとも生活相談員としてかわつたお話、いずれも大変貴重なお話を聞くことができました。

私たちは「如来様のお手立て、お手まわし」によって気づかないことを気づかせていただいていること。そのため、決して「お敬いを忘れてはいけないよ」「如来さまのお宝をもらわんといけんよ」というご講師がお祖母様から言われ続け、お育てに遇われたその一言一言を、今日、私たち一人一人が、引き継ぎ、受け取らせていただいたご縁でした。

午後からのクラフト「ハンドタオルでマスコットづくり」は、本当に小さなタオルハンカチやお手ふきが、可愛いクマさんやアヒルさんに変身していく姿にびっくり。そのハンドタオルで作ったマスコットを利用しての、担当組内の寺族婦人の皆さまによる模範演技発表で、本堂は大いに盛り上がりました。私のような不器用な者でも、皆さまと親睦を深めながら、和気あいあいと楽しく製作でき、そしてかわいいお土産もできたとい



う、感謝感謝、大満足の一日でした。普段は子守りで(実はそれも十分にはできていないのですが)なかなか自分自身だけの時間、ましてや研鑽の時間など持てない私なのですが、家族の理解、協力によって、貴重な研修に参加させていただきました。本当に有難うございました。みなさんも思い切つて、参加されてみてください。



平成二十八年三月一日、益田組専光寺に於いて三十二名の参加をいただき開催されました。今年度は石西ブロック益田組担当となり、初めて役員になった私にとっては大変責任が重く不安でした。会場のこと、ご講師のことなど、今まで何の心配もなく只々楽しみみのみ参加でしたから。幸いにも専光寺様が会所を快くお受けくださいました。そして、ご講師は以前から尊敬申し上げておりました当院、前坊守柗島智勢子様にお願いたしました。坊守としても、社会においても

「寺族若婦人研修会」に参加して、坊守としてのあゆみ

益田組蓮長寺 藤谷邦枝

地域の方々の見守りをずっと続けて来ておられる大先輩、一度お育てに会いたいと願っておりましたところ絶好の機会に恵まれました。

「坊守としてのあゆみ」と題してご講話をいただきました。広島のお寺で生まれ、お給仕、仏法に会う、奉仕、精進(すべての事に対して励め)、行儀作法など日常生活の中で自然と身につくように厳しく育てられて来られました。また、お祖母様の慈愛に包まれた温かいご家庭で成長され、「お寺に住まわせていただけることは如来様のおはたらき、如来様に申し訳立たないことをしてはいけない。子どものころつらいと思っていたこのことは、

坊守として過ごして行く中でようやく気づかされた」とお話くださいました。最後に、「坊守とは、住職を助け、本願寺様より預かりしている大切な門徒様をおまもりすること。お経は如来様のおこころ。如来様のおこ

ころを門徒様に伝える聴聞の場としてのお寺を護ること。坊守としてお寺に住まわせていただいているのは、如来様がお側においてくださっていること」と私はこの言葉が強く心に残りしました。日々自己中心の計らいごとのみで悩み、忙しくしていた自分が恥ずかしくなりました。

参したミニタオルが色とりどりのかわいい動物たちに変身、教務所長さんもとても可愛いマスコットを作られました。最後は、全員で音楽に合わせてのおしぼり人形のダンスで和やかに終わりました。如来様のご縁により、多くの方々とのつながりをいただき、感謝でいっぱいです。

なめらか「ぜんざい」でおもてなし

■材料〈50食分〉

小豆	1 kg
砂糖	1 kg
塩	小さじ5杯程度
もち粉	1 kg
じゅうてんどう 充 填豆腐	1 kg



■作り方

1. 洗った小豆に水を適量に入れ一度沸騰したら茹でこぼし、もう一度沸騰したら火を弱め、灰汁を取りながら時々水を足して柔らかくなるまで煮る。
2. 柔らかくなったら大鍋(小豆1kg)に砂糖1kg入れ一晩おく。
3. 次の日、砂糖を微調整して塩(小さじ5杯程度)を入れる。
4. もち粉1kgに充填豆腐(1kg)を徐々に加え捏ね少量の水(50cc程度)で調整しながら耳たぶくらいの軟らかさにする。
5. 150個くらいに切り分け丸く形を整え軽く平らにする。
6. 沸騰したお湯で茹でて浮かび上がった後少し置いてから水にとる。
7. 小豆汁に団子を入れて少し煮てから盛り付ける。

(神門組西楽寺 松田まひる)

「寺族婦人研修会に参加して」

「出会う世界」から「出会う世界」へ

大田西組瑞泉寺 三 明 啓 子

七月二十八日(木)、本願寺山陰教堂教化センターで「山陰教区寺族婦人研修会」が開催され、約六十名の坊守さまと共に受講しました。

今回は、あそかビハール病院の常駐僧侶、山本成樹先生をお迎えして「出会う世界」から「出会う世界」へとの講題でビハール活動を通して僧侶、坊守としての役割と取り組みについて学習しました。

先生は、平安高校在学中にお母さまが事故故にあわれ昏睡状態の中で「お念仏、お念仏やで・・・」との言葉が仏教との出会い、人生の方向転換となったと話されました。その後、得度、僧侶の道を歩まれ平成二十年四月に開設された「あそかビハール病院」に勤務されています。この病院は、仏のお慈悲の「ぬくもり」の中、生かされて生きる「おかげさま」の心で安らぎの医療の実践を基本理念に掲げておられます。がん患者本人はもちろん家族のケアに心がけて心身共に安らぎ、くつろぎ、休息の場所と位置づけられています。

緩和ケアとは、非日常的な死にいく場所と受けとめられがちですが、最後まで「いのち」を全うできるように、

生ききる場所として人生に寄り添い、苦悩の中から気づかされる本当の教え、目に見えないものの大切さを聞かせて頂きました。

そして、「自分が主語にならず、今日すべきことは今日、精一杯つとめよう」との先生の問いかけを肝に銘じて生活していきたいと思えます。

最後に感銘した金子大栄先生のお言葉を紹介します。

悲しみは 悲しみを知る

悲しみに救われ

涙は 涙にそそがれる

涙にたすけられる



ビハール活動とは、何ひとつ特別な活動ではなく念仏者としての実践であり、仏教の原点であることをあら

合同納骨墓(永代供養墓)に想う

江津組浄光寺 能美 ゆかり



この数十年の間に私たち日本人の思考形態は『迷惑を掛けたくないし干渉もされたくない。個人の自由が一番大切』として

地域社会や家族親族のつながりを小さく締め、社会的孤立の方向に進んできました。その結果、核家族の世帯を経て単独世帯がすでに全世帯の三割を超えるそうです。

加えて自坊の周りには単独世帯のお年寄りの死亡、または施設入所や都会の子ども宅に引き取られるなどの事情で空き家が増えてきました。いまや相続の一番の課題は空き家をいかにうまく始末するか、墓地管理を誰がするかという状況です。引き取り手がなく寺に預けたままのご遺骨が存在するのも自然の流れといえます。

各家で墓地を建立し遺骨を安置して懇ろに弔い、代々継承して守り続ける。今まで当たり前に思えた価値観が崩れ

ためて感じた大変有意義な研修会でした。

てきています。遺骨を粉状に砕き野や海などに撒く散骨が一九九一年墓地埋葬法で追認され、樹木葬など新しい形態の墓地が次々出てきました。

しかし、個人で墓地を持ち維持管理するのは不可能でも、旧来の墓地に埋葬して懇ろに弔ってほしいという願いは大変根強いものです。その多くの願いが現在の合同納骨墓を出現させたのでしょう。

このたび江津組における現状を寺族婦人会員にアンケート調査してみました。(合同納骨墓とは、各戸別の墓石・納骨壇を置かず、遺骨を合祀して永代に預かるもので、納骨後の維持管理費を徴収せず、原則として骨の移動返却はしないものとする)

◆平成二十八年六月十八日

アンケート結果

回収率五四% (二十四ヶ寺中十三ヶ寺)
一、合同納骨墓をすでに設置済 五ヶ寺
一、合同納骨墓を計画中 三ヶ寺
一、未定 計画していない 五ヶ寺
設置場所は境内が多く、納骨対象はほぼ門信徒限定でした。

因みに、自坊の合同納骨墓は六年前に建立しました。生前予約してお寺参りのご縁ができた方もあり、墓前には花が欠かさずお供えしてあります。

平成28年10月21日に発生いたしました「鳥取県中部を震源とする地震」
で被災されました皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

◆見舞金として当連盟より3万円を教区を通して送金させていただきますこと
ご報告させていただきます。

寺族婦人研修会でのダーナ献金について

平成28年7月28日開催の寺族婦人研修会で集まりましたダーナ献金は総額86,652円でした。
この献金は、「平成28年熊本地震災害義援金」として宗派に開設されています「たすけあい運動募金」に送金させていただきましたことご報告いたします。

東北ボランティアセンターお茶会支援

[平成27年度第2回目] 寺族若婦人研修会でのダーナ献金

平成28年3月7日・9日送付内容

品名	個数	品名	個数	品名	個数
抹茶グラッセ	3	みの焼	3	ミルクの国	2
ブルーベリー	3	豆枝	3	大山ミルク飴	2
いろせんべい	3	桜きんつば	5	ワカメスープ	7
カリット梅	5	一口ようかん	3	野菜スープ	2
あたりめ	7	いせきのど飴	2	チータラ	3
おしゃぶり	5	ナッツボン	2	九州黒棒	2
ふぐっこ	4	彩ごろ果実	3	茎わかめ	3
甘納豆	2	アルファチョコ	2	和ミックス	1
抹茶の松露	3	桜まんじゅう	2	味ごのみ	2
さきいか	6	合計 25,077円(送料込)			

謹啓
春陽の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
このたびは、東日本大震災復興支援へのご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
当ボランティアセンターでは、皆さまからのご協力を得て、現在も地域自立支援活動やお茶会活動、居室訪問活動、震災復興支援活動を行う関係団体への協力等を継続して行っております。
また、ボランティアの皆さまにご利用いただけるよう、情報収集並びに宿泊施設の運営・環境整備にも取り組んでおります。
つきましては、今後とも更なるお力添えを賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。
時節柄、御身御自愛を念じあげ、御礼にかえさせていただきます。
二〇一六年三月十一日
山陰教区寺族婦人連盟代表 東北教区現地緊急災害対策本部長 合 掌
権田 美津子

[平成28年度]

平成28年11月1日送付内容

品名	個数
鳥根特産フルーツ多伎町の 完熟いちじくフィナンシェ	4箱(32個)
隠岐の島塩塩どらやき	3箱(24個)
のどぐろとかに煎餅	3箱(60枚)
抹茶シフォン	4箱(48個)
彩雲堂 山かつら	2箱(90個)

合計 28,142円(送料込) 予備費より支出

謹啓
深秋の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
このたびは、東日本大震災復興支援へのご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
当ボランティアセンターでは、皆さまからのご協力を得て、現在も地域自立支援活動やお茶会活動、居室訪問活動、震災復興支援活動を行う関係団体への協力等を継続して行っております。
また、ボランティアの皆さまにご利用いただけるよう、情報収集並びに宿泊施設の運営・環境整備にも取り組んでおります。
つきましては、今後とも更なるお力添えを賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。
時節柄、御身御自愛を念じあげ、御礼にかえさせていただきます。
二〇一六年十一月十一日
山陰教区寺族婦人連盟代表 東北教区現地緊急災害対策本部長 合 掌
宮川 善裕
ご支援いただきまして感謝申し上げます。
お茶会の中で果物はごみから分別をされ
お持ち帰りいただきます。

2015(平成27)年度山陰教区寺族婦人会連盟歳計決算

歳入の部

款 項	費 目	決算額	予算額	対比△減	説 明
1	会費	490,500	492,000	△ 1,500	
1	本年度	490,500	492,000	△ 1,500	1,500円×327単位分
2	過年度	0	0	0	
2	1 助成金	200,000	200,000	0	教区助成金
3	回金	0	0	0	
1	教区より回金	0	0	0	本年度なし
2	特別会計より回金	0	0	0	本年度なし
4	1 参加費	129,000	120,000	9,000	寺婦研65,000円、 若寺婦研64,000円
5	1 雑収入	58,608	10,345	48,263	寺婦研32,426円、 若寺婦研26,182円
6	1 前年度繰越金	147,655	147,655	0	
	合計	1,025,763	970,000	55,763	

歳出の部

款 項	費 目	決算額	予算額	対比※超過	説 明
1	1 研修費	290,450	400,000	109,550	寺婦研51,772円、 若寺婦238,678円
2	1 会議費	274,613	250,000	※24,613	監査・代表者会・ 編集・常任
3	1 事務通信費	87,884	100,000	12,116	郵券料・事務消耗品
4	1 教化費	54,000	70,000	16,000	寺婦のひろば
5	1 回金	30,000	30,000	※0	特別会計への回金
6	1 諸費	0	30,000	30,000	
7	1 予備費	74,063	90,000	15,937	東北16,550円、32,436 円、25,077円
	合計	811,010	970,000	158,990	

歳入	1,025,763
歳出	811,010
差引残額	214,753

2016(平成28)年度山陰教区寺族婦人会連盟歳計予算

歳入の部

款 項	費 目	28年度予算	27年度予算	対比△減	説 明
1	会費	489,000	492,000	△ 3,000	
1	本年度	489,000	492,000	△ 3,000	1,500円×326単位分
2	過年度	0	0	0	
2	1 助成金	200,000	200,000	0	教区助成金
3	回金	0	0	0	
1	教区より回金	0	0	0	本年度なし
2	特別会計より回金	0	0	0	本年度なし
4	1 参加費	120,000	120,000	0	研修会参加費 (2,000円×60名)
5	1 雑収入	6,247	10,345	△ 4,098	
6	1 前年度繰越金	214,753	147,655	67,098	
	合計	1,030,000	970,000	60,000	

歳出の部

款 項	費 目	28年度予算	27年度予算	対比△減	説 明
1	1 研修費	350,000	400,000	△ 50,000	寺婦研修会
2	1 会議費	340,000	250,000	90,000	代表者会・常任・ 正副委員長
3	1 事務通信費	100,000	100,000	0	郵券料・事務消耗品
4	1 教化費	70,000	70,000	0	寺婦のひろば
5	1 回金	50,000	30,000	20,000	特別会計への回金
6	1 諸費	30,000	30,000	0	
7	1 予備費	90,000	90,000	0	
	合計	1,030,000	970,000	60,000	

2015(平成27)年度山陰教区寺族婦人会連盟特別会計歳計決算

歳入の部

款	費目	決算額	予算額	対比△減	説 明
1	前年度繰越金	372,163	372,163	0	前年度繰越金
2	回金	30,000	30,000	0	一般会計からの回金
3	雑収入	0	837	△ 837	
	合計	402,163	403,000	△ 837	

歳出の部

款	費目	決算額	予算額	対比※超過	説 明
1	翌年度繰越見込金	402,163	403,000	837	翌年度繰越金
2	回金	0	0	0	
	合計	402,163	403,000	837	

2016(平成28)年度山陰教区寺族婦人会連盟特別会計歳計予算

歳入の部

款	費 目	28年度予算	27年度予算	対比△減	説 明
1	前年度繰越金	402,163	372,163	30,000	前年度繰越金
2	回金	50,000	30,000	20,000	一般会計からの回金
3	雑収入	837	837	0	
	合計	453,000	403,000	50,000	

歳出の部

款	費 目	28年度予算	27年度予算	対比△減	説 明
1	翌年度繰越見込金	453,000	403,000	50,000	翌年度繰越見込金
2	回金	0	0	0	
	合計	453,000	403,000	50,000	

編集後記

カレンダーも残り一枚となりました。
今年もうれしいこと・楽しいこと・悲しいことがたくさんありました。

ご本山では「伝灯奉告法要」が始まり、一人でも多くの皆様方に参拝をいただきご勝縁に遇われますことを念じております。

今年も自然災害が多く、四月の熊本地震・十月の鳥取県中部地震をはじめ、度重なる台風等で多くの寺院やご門徒の方々が被災されましたことに心からお見舞い申し上げます。

また、生命を軽視する事件や高齢者の交通事故等が数多く起きた一年でもありました。

年末の慌ただしさの中にも、新しい年に向かって歩まなければならないと思います。明年こそ『世の中安穏なれ』と願うばかりです。

今回も原稿の依頼に快くお受けいただきました方々に感謝申し上げます。

